


音楽 No.2

このワークシートは学習のあと、
先生にわたしましょう。

6年	組
名前 _____	

めあて 短調と長調のひびきのちがいを感じ取ろう


- *歌唱・器楽教材の音源は、授業での聴取または学校 HP 等からの限定配信をご利用ください。
学校からの配信は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 SARTRAS へ登録・申請のうえ、パスワード等を用いた限定配信及びストリーミング配信（ダウンロード不可）で行ってください。
- *歌唱や吹奏楽器の扱いは、家庭等校外での活動を視野に作成しています。
授業で扱う場合はマスクの着用やソーシャルディスタンス、衛生面等にご留意ください。
- *「◎ハンガリー舞曲 第5番」は、授業での鑑賞をご利用ください。

問題中の  のマークは、下記サイトのワークシートの下に音げんデータがあり、きくことができます。
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/shou/ongaku/document/ducu2/docu208/ws-2-1.html#06>

1. けんぱんハーモニカなどを使い、教科書 13 ページの「イ短調の音階」や「ハ長調の音階」を演奏して、ひびきをくらべてみましょう。

イ短調とハ長調の音階の音を確かめ、それぞれを比べて、どんな感じがしたか、書きましょう。

★イ短調の音階


 621

はじめの音



どんな感じがしましたか。

★ハ長調の音階

 622

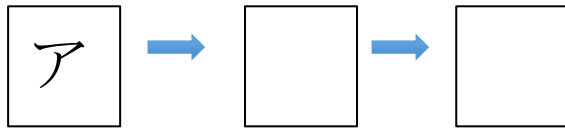
はじめの音



どんな感じがしましたか。

2. 教科書 12 ページ「マルセリーノの歌」の楽ふを指でなぞりながら、音げんをきいてみましょう。

★曲の進み方がわかりましたか？ 教科書を見ながら、この曲の進み方を確かめて書いておきましょう。



★もう一度「マルセリーノの歌」をききましょう。今度は、曲の感じに気をつけてききましょう。
どこで感じが変わるかわかりましたか。どちらかに○をつけましょう。

- () わかった
- () わからなかった

★この曲は、イ短調のところとハ長調のところがある曲です。
どちらで始まって、どのように変わったか、書いておきましょう。

はじめは □ 調で始まり、次に □ 調に変わり、
再び □ 調にもどる。

3. 「マルセリーノの歌」のリコーダーパートをふきましょう。

★教科書の1と2のパートのせん律に階名（ドレミ…）を書きましょう。
楽ふを見てわかる人は次に進みましょう。

★1のパートのせん律をドレミで歌ってから、指づかいを確かめてふいてみましょう。

*リコーダーの指づかいは、教科書 77 ページで調べましょう。
高い音は、「ティ」や「リ」のタンギングでふいてみましょう。

ふり返って○をつけましょう。

- () ふけた
- () だいたいふけた
- () わからない（うまくふけない）ところがあった

★2段目の2のパートもふいてみましょう。ドレミで歌い、指づかいを確かめてからふきます。
ふり返って○をつけましょう。

- () ふけた
- () だいたいふけた
- () わからない（うまくふけない）ところがあった

★音源と合わせて一緒にリコーダーをふいてみましょう。1のパートと2のパート，両方にちょう戦
てみましょう。イ長調やハ長調を感じながらふくといいですね。

ふり返って○をつけましょう。

- () イ短調とハ長調とで，演奏するときの感じ方が変わった
- () ふき方は変わらなかったけれど，だいたいふけた
- () 音源が速くて，まだついていけない

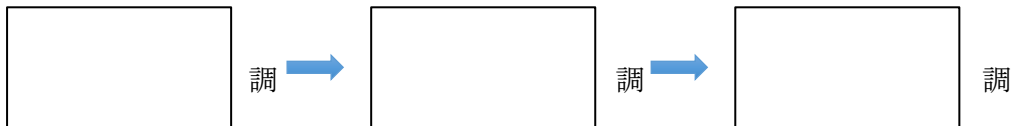
4. 「ハンガリー舞曲 第5番」を，調に気をつけてききましょう。

★きく前に，この曲につかわれている短調と長調の音階を，きき比べておきましょう。

♪623 短調

♪624 長調

★この曲は，短調のところと長調のところがあります。この曲を大きく三つに分けるとすると，
どのように音楽が進むでしょうか。きいてみて，わかったら書きましょう。



★今度は，曲に合わせて体を動かしながらきいてみましょう。大きく2びょうしの指揮をするような動
きをしながらききます。曲にぴったり合うように気をつけながらやってみましょう。

調の変化のほかに，曲の感じが変わる理由について，気がついたことを書きましょう。

5. 4の学びをもとに，「ハンガリー舞曲 第5番」について，いいなと思ったところや面白いなと思った
ところを書いておきましょう。その理由も書きましょう。

ひとくちメモ ハンガリー舞曲について

ハンガリー舞曲集はもともと、ロマと呼ばれる移動しながら生活する人々の間に伝わるおどりの音楽をもとに、ドイツの作曲家ブラームスが作った、ピアノの連だん(1台のピアノを二人で演奏する)のための作品集です。

ブラームス自身はこの舞曲集に収めた曲を自分の「作曲」とせず、「編曲」したものとして発表しました。

ピアノの曲として人気を博したこれらの舞曲は、のちにいろいろな人によってほかの楽器のために編曲されました。オーケストラのための編曲も多く、みなさんがきいた「第5番」も、オーケストラによる演奏で広く親しまれています。